

「再建」デモが策動粉砕へ！

日刊 動労千葉

80.7.8
No. 476

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）三三八・九（公衆）五三二・七二〇七

6・28「7・5」勝利を起点にさらに闘いぬく。

「本部」革マル反動分子と一部スパイ、裏切り分子による6・28および7・5「再建千葉地本」デッチ上げ策動は、動労千葉の怒りの決起によって粉砕された。
当局に講習室の使用と、機動隊や公安による防衛を要請し、短期転勤者にムリヤリ年休をとらせ、スパイ嶋田と「三信ビル」緒方等が眼を血走らせてどう喝しても、二度にわたるデッチ上げ策動が粉砕されてしまったという現実の中に、「本部」革マル反動分子の言う「再建」のデタラメさが何よりも鮮明に突き出されている。

「再建」 「一步も進んでいない」

第一に確認できることは、いかに動力車新聞や「再建情報」でデマをくり返そうが、昨年の全国大会にスパイと私利私欲の裏切者「七名」が参加した以上に「再建」が一步も進んでいないという厳然たる事実である。

この事実をひた隠しに、いかにも「再建」が進んだかのように見せかけるために、あと一年ほどしか千葉にいない短期転勤者を強迫し、前面に押し出しているのが今日の実態である。

これは、八月全国大会までに何としても「再建」をデッチ上げなければならぬ革マル分子の焦り以外のなにものでもない。

スパイ・裏切者を許すな！

第二に、われわれが見すえなければならないことは、この「本部」革マル反動分子の焦りかられた策動に手を貸し、動労千葉組合員と短期転勤者にデタラメな「オルグ」をするなどして動めき動労千葉に対する選別的不当処分の手引きをした土屋耕をはじめとする極少数の裏切分子の存在である。

「金目当」としか思えないやり方で「目黒」選挙を利用した組織介入・組織破壊に手を貸し、「ボーリング大会のときに佐倉支部は結成された」とか「八街の花見のときに、すでに結成した」と言い「だから」再建に協力しろ」と短期転勤者を「オルグ」する一方で、動労千葉の説得、糾弾オルグに対しては、「千葉に敵対するつもりはない」などという嘘を平気で言うーこれが裏切者がこの間やってきたことの実態なのである。

無責任さわまる裏切者の実態

第三に、何よりも許せないことは、この間の動労千葉の闘いや役員・活動家に対し何の根拠もなくレッテルはりを行い勝手気ままな誹謗中傷をするだけで、「それでは、将来の動労千葉はどうあるべきなのか」ということに対しては全く答えら

れないということである。

「むつかしいことはわからない」「『本部』の情報も動労千葉の情報も読んでいない」「知らない」「口ではかなわない」というのが裏切者達のキマリ文句である。このような無責任な立場や考え方で、動労千葉一四〇〇名労働者の将来をきめることなどできるだろうか。

「労働組合は大きい方がよい」などということは、動労千葉に結集した全ての労働者が考えたことであり、その上でお、自らの職場と闘いを守り、セクト的にネジ曲げられた動労運動を改革するために決起したのである。

自らの行動が動労千葉をはじめとする全国の労働者にどんな迷惑をかけているのかというのを全くかえり見ず、「千葉はわれわれに冷や飯を食わせたが、松崎さんは」佐倉の親分」と言つて下にもおかずにもてなしてくる」などというタワゴトをもつて敵対する者が、糾弾され、弾劾されるのは当然である。

裏切者が生き残るのか 動労千葉が生き残るのか

マル生闘争を想起せよ。

われわれは「われわれが生き残るのか、鉄労が生き残るのか」をかけて決起し、勝利してきた。

「本部」革マル反動分子は「動労千葉解体」を叫び、鉄労以下の当局との癒着、権力へのタレコミと暴力をもつて策動してきている。

職場の中で「われわれが生き残るのか、裏切者が生き残るのか」、文字通り死活をかけた闘いである。

「6・28」「7・5」の勝利を起点に総力をあげて闘い抜こう。



裏切り者許さず、団結しよう！
ー佐倉は今燃えているー（機関区入口）